



京都市学校歴史 博物館だより

VOL.
10
平成16年12月発行



特別展「陶芸家からのおくりもの」

～京都市立学校所蔵の陶磁器～

京都の市立学校には、子どもたちの健やかな成長を願って、地元の皆様や卒業生からたくさんの陶芸作品が寄贈されています。また、陶芸家本人から母校への感謝の意を込めて作品を寄贈されているケースもあります。

現在開催中の特別展「陶芸家からのおくりもの～京都市立学校所蔵の陶磁器～」では、これらの名品の中から、特に著名な陶芸家の作品を中心に展示しています。

この特別展は、平成15年11月に新設しました第2展示室をフルに活用し、3つの展示室に約100点の作品を展示するという、非常に大規模な陶芸展となりました。入館された方々からは、「展示作品がたくさんあって、非常に迫力があつた」「地域と学校とのつながりを肌で感じることができた」等々のご意見・ご感想をいただいております。

今回の特別展には当博物館に初めてお越しいただいた方が多く、当博物館の「知名度アップ」からも非常に実りの多い事業になりました。

この特別展は、来年の1月18日まで開催しておりますので、多数のご来館をお待ちしております。

企画展の概要

開催期間 平成16年10月16日（土）～

平成17年1月18日（火）

（水曜日、12月28日～1月4日は休館）

展示作家名 清水仰一、北大路魯山人、河井寛次郎、近藤悠三、
六代清水六兵衛、楠部彌弼、宮下善寿、森野嘉光、
今井政之、新開寛山 ほか



「二宮金次郎像とメートル法」

博物館主事 高山 司朗

二宮金次郎の像が、今も小学校の一角に建っていることを心に留める人も少なくなってきましたが、意外に多く残っています。金次郎像が、どうして小学校に建てられるようになったのか、簡単にふれてみます。

日本で最初に金次郎像が小学校に置かれたのは、1924（大正13）年、愛知県豊橋市の前芝小学校で、わら縄で作ったびくを背負った姿がセメントでつくられ、高さは約1mでした。

二宮金次郎は修身の教科書によって、二宮金次郎像が広まったと考える人も少なくありません。確かに、修身の教科書にはたびたび登場していますが、薪や柴を背負って本を読む絵は、一度もでてこないのです。

それなのに、現存する金次郎像の多くは、柴を背負い高さが1mのものが多いです。

なぜ、1mなのか。

日本がメートル法条約という国際条約に加盟したのは1885（明治18）年で、メートル法に統一されたのは1966（昭和41）年でした。

その間の昭和の初期、メートル法の普及が叫ばれ、金次郎像の体形はいろいろでも、高さは1mとして、メートル法の普及に協力することとなったのです。

このことは広く知られることもなく、金次郎像が1mであ

ることも知る人がほとんどいないままとなったのです。

この金次郎像が全国に広まっていった理由はいろいろあるようですが、主なことがらを挙げておきます。

1928（昭和3）年の名古屋での博覧会に愛知県岡崎の石工による石像の金次郎像が出品され、全国にこれを宣伝するきっかけとなったのです。

一方、富山県高岡の鋳造業者も銅像の金次郎を売りだし、なかには、薪でなく柴を背負ったものもありました。鋳造は、大量生産も可能だったのです。

こうして多くつくられた金次郎像が、学校を支える地域の人々によって、いろいろな形での記念品として学校に寄贈されたことも、普及に大きな役割を果たしたと考えられます。



昔の学校あれこれ

第四回

「修学旅行」

現在の修学旅行の基といえる校外での見学活動は、明治時代からありました。初詣、お参り、見物、登山、卒業記念旅行という形で行われていました。修学旅行という言葉が初めて法令上現れたのは明治21年でした。その後、師範学校が最初に修学旅行という形でを行い、その後各学校に普及しました。

京都では明治の終わり頃から「校外教授」という名称で京都の名所や神戸、大阪、奈良へ行くようになりました。大正5年の校規を見ると、六年生の三月に一泊二日の伊勢旅行が行われています。

写真は、大正初期と思われる頃の豊園尋常小学校での修学旅行の写真です。わらじを履いている姿が当時の服装の特徴をあらわしています。



講演会 「京都の小学校のなりたち」



京都市学校歴史博物館では、平成16年10月2日(土)13時30分から、佛光大学通信教育部非常勤講師 辻ミチ子先生による講演会「京都の小学校のなりたち」を開催しました。

辻ミチ子先生は、当博物館の常設展示の大きな柱である「番組小学校の成立過程」等について多数の論文を発表されています。今回、当博物館の展示趣旨を広く市民の方々に知っていただくために講演をお願いしました。

① 幕末の動乱から地方都市「京都」へ

京都は、幕末の一時期政治の中心地になったが、明治になって天皇は東京に行くことになった。その結果、京都は政治の中心からはずれ、蛤御門の戦い等で荒廃した京都の地域(京都府)をなんとか盛り立てていかなければならなかった。

② 「政教不岐」と「殖産興業」

京都府が京都の地域を盛り立てるために考えたことは、「政教不岐」と「殖産興業」であった。「政教不岐」とは、政治と教育を離さずに一緒に発展させることである。これは、京都の行政区画というものをきちっと整備して、それを基本にしなが学校をつくり、子どもたちに勉強を教えていこうというものだった。

③ 町組の改正

京都では町内の自治が古くから発達していたが、江戸時代の間は、以前からあった町(親町、古町)が中心で、新しくできた町(新町)はそれに従うという状況が続いた。京都府は、明治2年に従来古い慣例にとらわれない第二次の町組改正を行い、上京と下京の町組を整理した。これが学区の元であり、その学区に番号をうったので番組という名前がついた。これにより京都の行政区画ができ、番組を基礎とする行政組織がつけられた。

④ 番組小学校の成立

京都府は、学校設立の建白を奨励した。そうして行政が、



学校をつくりたいと願う町の人たちの気持ちをたくみに汲み取り、明治2年の1年間に、番組に従って学校が64校開業式をあげることに成功したのも、行政の指導と町の人たちの気持ちとがうまくいったからではないかと思う。当時の学校というのは、小学校兼町組会所であった。小学校を建立する際に京都府が考えたことは、かまど別に集金する電金制度であった。それに加えて、町の人たちは、「小学校会社」という金融会社をつかった。町内で学費を払えない者のお金を補填する。先生の給料もそこから出す。設備も小学校会社のなかで考えていく。そうしたことを目的とした会社であった。

⑤ 中学校と欧学舎

京都府は、明治2年に中学校を二つ作ろうと政府に出願したが、拒否された。そこで、明治3年に洋学所を置くことを決めた。その後、洋学所は欧学舎と名称変更し、独語と英語と仏語を教える学校となった。さらに、同年、昔からある中等教育の場所を利用して、京都に1校だけ中学校を開校し、翌年に開業式をあげた。明治5年の学制発布により、明治6年に京都の中学校は廃止となったが、京都府は欧学舎を残し、小学校取締所という小学校の先生を指導する機関(実質上の中学校)をつかった。

最後に、「当時の、特に小学校中心の学校というのは、個人を尊重するということを考えていた。現在、困った教育現状が拡がってきているが、そういったときに、京都では、明治初頭の頃に行った教育改革を勉強して、そしてこれからの教育のことを考え、実行していくことが大きな課題ではないかと思う。」というお話で締めくくっていただきました。



VOICE ボランティア市民学芸員の声

「市民学芸員として思うこと」

学校歴史博物館 市民学芸員 藤坂 幸子



学校歴史博物館は開館5周年にあわせて、第2展示室が新設され、博物館として充実発展していますが、反面、私は生涯学習を目指して開館以来市民学芸員として少しは進歩しているのかと、常に反省しています。

来館者の年齢層も幅広く、大勢の方が展示品に興味を持っておられ、思い出深そうに見入って、私のつたない案内説明を聞いてくださり、「また来ます」と言っておられた時は、感動して「幸せだなあ」と思うこ

とが多々あります。

また、番組小学校以降の教科書の変化と、歴史の移り変わりを入館者の方と共感することができます。共通した体験（墨塗り教科書）で、何もなかった時代をふり返り、知っていそうで知らない教科書の移り変わりを体感できたことを話し合うことができました。

子どもから大人まで、数多くの出会いとふれあいがある、集いの場の機能を兼ね備えたこの学校歴史博物館は、私にとって、生涯学習の場として最高の博物館だと、誇りに思っています。

次回企画展

「みて、きいて、楽しかった教具展」

～子どもたちが目を輝かせた視聴覚教材・教具のいろいろ～

明治5年の学制布告により、日本の近代教育はスタートしましたが、当時の小学校では、一斉授業の形態で教えるために、掛図が重要な役割を果たしました。また、当時の教育者たちは、新しい時間の単位、平易な文字の書き方、廃藩置県後の地名など様々な事柄を指導するにあたり、掛図から標本模型、幻燈、スライド、映画と、子どもの視聴覚に訴える教具を開発しました。

今回の展覧会では、明治初期の掛図から、昭和50年代のビデオ教材に至る様々な視聴覚教具を展示することによって、教育関係者の熱意と子どもたちが学ぶ当時の教室を振り返り、今日の教育について考えるき

っかけになればと考えています。

たくさんの方々のご来館を心からお待ちしております。

開催期間 平成17年1月22日（土）～4月19日（火）

（水曜日は休館）

展示構成 「視聴覚教具いろいろ」（第2展示室）

「明治初期の掛図いろいろ」（第3展示室）

なお、併設展示として、美術展「教壇に立った芸術家たち」を第1展示室で開催します。

京都市学校歴史博物館

京都市下京区御幸町通仏光寺下る桶町437（元開智小学校）
TEL.075-344-1305 FAX.075-344-1327 〒600-8044
http://www.gakurehaku-unet.ocn.ne.jp

- 入館料/大人200円 子ども（小・中・高）100円
（20名以上の団体/大人160円 子ども80円）
※京都市内の小・中学生は土・日は無料
- 開館時間/9:00～17:00（入館は16:30まで）
- 休館日/水曜日（休日の場合は翌日）
12月28日～1月4日



ひと・まち・ロマン 元京都市・京都

交通 ACCESS

- 阪急電車/「河原町」駅下車 南西へ歩5分
- 地下鉄/烏丸線「四条」駅下車 南口改札東へ歩10分
- 市バス/「四条河原町」駅下車 河原町通より西へ二丁目（御幸町通）より南へ歩5分